

## 平成 29 年度第 3 回学校評議員会・学校関係者評価委員会 報告

### 1 参加者

- (1) 学校評議員 渡ヶ島自治会長 NPOくらしえん・しごとえん代表理事  
浜松学院大学准教授 天竜厚生会障がい者支援事業部長
- (2) 学校 校長 事務長 教頭

以上 7 人

2 日 時 平成 30 年 2 月 19 日 (月) 午前 9 時 30 分から午前 11 時まで

### 3 内容

- (1) 校長挨拶
- (2) 本年度の学校経営の反省について
- (3) 来年度の学校経営計画について
- (4) 提言聴取

### 4 いただいた主な御意見

<学校経営報告の自己評価について>

- ・保護者や教員へのアンケート結果の分析をどうするかが課題である。
- ・保護者アンケートにおいて、回収率を明確にする。  
また、総数が少ないので一人の占める割合が多い。評価の数字の裏にある真意をどう捉えるかが大切である。
- ・職員のアンケートで A 評価が 100%であっても事故が起きたのなら、評価としては A ではなく C か D になる。

<進路指導>

- ・高等部は普通科のカリキュラムの中では、労働体験が取りにくい。在学中と卒業後とのギャップが大きすぎる。就職前にもう一段階あるとよい。
- ・卒業後、うまく行かなくなったときに、どの機関がどう支えるのか、学校が把握していることが大事。
- ・失敗したときにどのようにすべきか保護者や関係機関が分かるようにしておきたい。
- ・教員は、定期的にフォローアップするためのコーディネーターでありたい。

<地域との連携>

- ・高等部卒業後は福祉就労から始めると良い。そのために「みゅうの丘」の中で段階を踏んでから社会に出せると良い。